

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会
開 催 日 時	令和7年7月22日(火) (午前・午後) 2時00分 開会 (午前・午後) 5時00分 閉会
開 催 場 所	おにクル7階 会議室2
議 長	河合 将生 氏 (office musubime 代表、NPO組織基盤強化コンサルタント)
出 席 者	【評価委員】 河合将生氏 (NPO関係者)、入江陽子氏 (NPO関係者)、板倉幸司氏 (公募市民)、小村郁慧氏 (公募市民) (4人) 【事務局】 吉田共創推進課市民活動グループ長、松井、岡田 (3人) 【担当課】 人権・男女共生課、地域福祉課、農林課 (3課)
開 催 形 態	原則公開 (傍聴なし)
議 題 (案 件)	(1) 概要説明および会議の公開・非公開の決定 (2) 提案者によるプレゼンテーション及び質疑応答
配 布 資 料	・第4回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会次第 ・令和7年度 チャレンジいばらき補助金 (共創型) 申請事業一覧 (プレゼン審査タイムスケジュール) ・応募関係書類 (個人情報を含むため省略)

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	開会及びあいさつ
河合委員長	公開・非公開の決定について（原則公開・会議録は要点筆記） 本日の会議の概要説明 傍聴者入室 ----- プレゼンテーション開始 ----- 【共創型】 オニもおどる！DARE DEMO DISCO IN おにクル シニアディスコを広める会いばらき 【関連課 意見】 【質疑応答】
板倉委員	・ イベントの参加人数見込みはどの程度か。 →これまでの参加人数が 50 名程度であり、会場のキャパシティはこれまでよりも少し広がるものの、接触事故等があってはいけないので、同数程度を想定。
小村委員	・ ダンス部の学生に指導してもらうような計画をされているが、ただ学生に踊ってもらうのではなく、当時の衣装や小道具を使って踊ってもらえば、学生も高齢の方も楽しんでもらえるのでは。
入江委員	・ 過去実施された際の振り返り結果などを教えていただきたい。 →踊りの強度が強かったという反省から、難易度を下げて実施した。 自分の体調に合わせて踊るようアナウンスしたものの、体が痛くなったというような声もあり、座って参加なども構わないという雰囲気作り方は今後の課題と考えている。
河合委員	・ 過去参加された方の参加経緯は。 →広報紙の案内を見てこられた方や、老人ホームの案内で来られた方が多かった。 ・ ディスコという仕掛けを通して、高齢者と若い世代との交流の場とすることができると思う。また、高齢者の方にディスコのプログラムの作成から関わってもらうなど、参加のプロセスについても今後検討されたい。
団体	【自由テーマ型】 シニア世代向け麻雀小噺&健康マージャン にぎわい亭一門
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】

河合委員	・麻雀小話とはどのようなものを予定しているのか。 →合計5分間くらいのをこれから創作予定。麻雀をキーワードに場を和ませるようなものを実施できれば。
小村委員	・高齢者は、長い説明などを苦にする人も多いので、小話を交えつつ、麻雀初心者も楽しく取り組んでもらえる場にしていただければ。 →ルールなども交えた小話も検討してみようと思う。 ・広報はどのように行うのか。 →現在、落語の活動で公民館などに赴く機会があるので、そのタイミングにチラシなどで広報していこうと考えている。また、SNSでの発信も検討。
板倉委員	・バリバリやりたい人と初心者とでグループ分けしてみてもどうか。 →参加者の中で、麻雀のルールをよくわかっている人が、初心者に教えてくれるようなことがあれば嬉しいと思っている。回数を重ねていって、分けるのがいいのか一緒でも問題ないのかという点は判断していけたらと思う。
入江委員	・団体のメンバーの内、麻雀を教えられるのは何人程度か。 →4、5人程度。 ・初心者の方でルールがわからず孤立するようなことがないように、ルールがわかるメンバーが気を配るなどがあつたらいいと思う。
団体	【自由テーマ型】 茨木地域と農の担い手コミュニティ事業 一般社団法人みずとわ
関連課	【関連課 意見】
河合委員	【質疑応答】 ・行政との連携は何を想定しているか。 →新規就農にあたっては、行政の協力が必要不可欠。真剣に農家になりたいけど、実績がないような人がどのようなことを求めているかという点を、事業報告として、農林課へ提供できればと考えている。
小村委員	・実施場所は人口が少ない地域になるが、どのような行事を想定しているのか。 →山間部は自治コミュニティが強固であることが特徴。川の清掃や掃除などに参加いただき、地域に溶け込むきっかけとしてもらえれば。
板倉委員	・専業・兼業農家を目指す人が今回のターゲットか。 →基本のターゲットは、専業・兼業農家になるが、自給農をやりたいという人もいる。そのような人は、援農関連の窓口につながるようなことも考えている。 ・イベントの詳細は。 →午前中は先輩農業者の農地に赴き、実際に農業体験をしていただく。午後からは、農業経営がどのような形で行われているかの詳細な話を聞くことができる時間にしたいと思っている。

団体	【自由テーマ型】 茨木市内での就農希望者の支援及び農業活性化促進事業 よんつぶのたね
関連課	【関連課 意見】
河合委員	【質疑応答】 ・体験者から体験料を受け取らないのはなぜか。 →有料にしてしまうと、運営側にも体験者側にもハードルが上がってしまうと考えている。新たに体験者用に畝を用意するなどではなく、自身の農地の作業を手伝ってもらうような形にすることで、全体の流れを把握してもらいつつ、団体メンバーは新規就農者でもあるので、運営側の管理なども簡潔にできればと考えている。
小村委員	・3つ圃場があるとのことだが、どこの圃場がどのくらいの人数が受け入れ可能かというところの調整・整理が必要ではないか。 →まず、農林課が窓口で面談の上、その時々で案内できる圃場へ案内する。圃場は3か所あり、様々な野菜を育てているので、その時期に作業ができる場所を案内できることが強み。
板倉委員	・作業を一緒にするのであれば、安全確保のための経費を計上するように。 ・農作業を手伝ってもらうにあたって、報酬を検討しているか。検討していないのであれば、来年以降の継続性がないように思うが。 →報酬は検討していない。アグリバを希望する人は、有料でも経験の場を提供してほしいという声が多くあるので、継続性は問題ないと考えている。
入江委員	・受け入れていくにあたって、受け入れ側の改善点などが見えてきた際には、随時農林課へ共有されたい。
河合委員長	他に意見はないか。以上でプレゼンテーションを終了する。 事務局から連絡事項はないか。
事務局	この後、採点表を回収し、事務局にて集計ののち、交付・不交付について団体へ通知します。
河合委員長	以上で、第4回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会は閉会とする。